資料６

その他の事項に関する論点整理

課題、問題点等	対応案
5. 全般的な課題、その他	
1) がん研究を担う人材の育成における問題点	1)
① 大学等における臨床研究者の育成システムが、いまや、がん医療の高度化に対応できていない。がんプロフェッショナル養成プランも、がん研究人材養成には対応していない。	① 医学部および医学系大学院における、がんに関する教育の充実を図るとともに、一貫した研究者育成システムを確立することが急務である。次期がんプロフェッショナル養成プランの目標の一つに、がん研究者の育成を明示すべきである。
② 基礎研究から臨床研究まで、全てのがん研究領域において、医学部出身の研究者が減少している。これには、若手臨床医のがん研究離れが大きな要因の一つとなっている。	② 国内に、総合的がん研究・臨床拠点（comprehensive cancer center）を整備し、そこにおいて戦略的ながん研究者育成を行うべきである。
③ 橋渡し研究や臨床研究、さらには、大規模疫学研究など、システムとして推進されるがん研究において、臨床研究の CRC やデータマネージャーに代表されるような、その推進に必須の、研究者ではない専門職の育成システムが確立されておらず、これらの人材の不足が研究の停滞を招いている。	③ がん研究推進に必須な各種専門職の戦略的育成とキャリアパスの確立を行うべきである。具体的には、研究拠点における常勤ポストの増設を行うとともに、卒前・卒後教育の充実を図るべきである。
④ がん研究領域における人材の流動性が限られており、結果として、国際化の遅れや女性人材の登用の不足を招いている。	④ がん研究領域の国際化と女性人材の参画促進を目的とした、公的な支援制度を構築する必要がある。
2) がん研究の推進体制における問題点	2)
① がん研究推進を支援している関係省庁間の連携が十分でなく、国としての戦略的ながん研究推進が行われていない。現在、厚労省と文科省が推進している第３次対がん１０ヵ年戦略においても、その連携しての立ち上げ以降、その推進における二省庁の連携体	① 国内の全てのがん研究の推進状況を俯瞰し、関係省庁の連携を強く促進するような機能を持つ組織を構築して、研究財源の確保から、国際的競争力の維持まで、高い戦略性を持ったがん研究推進を行う必要がある。

制はとられていない。また、予算配分から研究成果の評価にいたるまで、研究領域ごとの独立性が高く、がん研究全体を見渡した効果的な研究推進が出来ていない。 ② 各研究事業の審査や評価において、基礎研究から臨床研究までの一貫した流れに対する視点が弱く、効果的な、がん医療開発への貢献が出来ていない。 <u>3) 国民そしてがん患者とがん研究の関係に関する問題点</u> ① がん対策の他の領域に比して、がん研究の領域は、市民や患者に対する情報提供や広報活動が大きく遅れており、各種のがん研究推進事業の具体的な目的や成果について、国民に対して判り易く、透明性の高い説明がなされていない。そもそも、現在、国内におけるがん研究事業の推進状況を知ることは極めて困難である。	② 創薬や医療機器開発など、新たながん医療の創成における出口が明確な研究事業に、より焦点を当てた支援がなされるべきである。 3) ① 公的な研究機関と関連学会等が連携して、国内のがん研究推進状況に関するデータベースを構築し、これを公開する必要がある。
② 治験や臨床試験に関する情報の開示や広報活動が不十分であり、患者の臨床試験へのアクセスを困難なものにしている。	② 臨床研究グループや TR 研究拠点に対して、公的研究費の支援を行うことで、その臨床試験情報の開示･公開を促進する必要がある。(research IND ?)

原案作成: 野田 哲生